

第51回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日 時 平成25年3月3日（日）於
会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【みんなが幸せになる活力ある地域づくり】



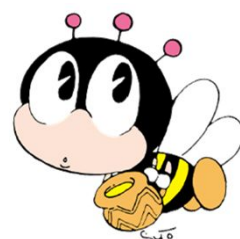
まちづくり



ひとづくり

いつでも、どこでも、誰でもできる

大月市教育委員会



第5 1回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【みんなが幸せになる活力ある地域づくり】

2. 大会主旨

私達の知らない色々な分野で、すでに活動を始めている方達の実践例から、「活動していくこと」それが「学び（生涯学習）」であり、「活動の輪を広げていくこと」これが「地域づくり、人づくり（社会教育）」であることを意識してもらい、何かを始めてみようとする気持ちが、生きがいや、やる気となり、心の充足感や仲間づくり、地域づくりとなっていく。そしてやがてはその小さな気持ちが活力ある大月市を創り上げ、みんなの幸せへと繋がっていくを感じてもらうことによって、行動を起こすきっかけを見出し、生涯学習への意欲を高めることを今大会の主旨とする。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成25年3月3日（日）午後1時30分 開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. シンポジウム（第1部：パネリスト発表 第2部：会場との対話「意見・情報交換」等）

生涯学習の実践と成果の活用、学習に踏み出すための情報の提供や交換から生涯学習の楽しさを感じてもらおう。

○コーディネーター

- ・都留市家庭教育支援チーム「ラ・ペジブル」 藤森 晴江 氏

○パネリスト

- ・津根 静香 氏（りん鈴 Factory）
- ・長田 タネ 氏（猿橋いきいきサロン）
- ・加納 健司 氏（大月市健やかスポーツクラブ）
- ・奥野 治子 氏（年中無休の御太刀ラジオ体操の会）

7. その他

- ・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 ロビー）
各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）
中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）

- ・アトラクション 猿橋小学校児童による琴の演奏

8. 時間設定	受付・開場	12：45～
	アトラクション	13：10～13：25
	開会行事	13：30～14：00
	シンポジウム	14：00～15：55
	閉 会	～16：00

コーディネーター紹介



(都留市家庭教育支援チーム「ラ・ペジブル」)



ふじもり はるえ
藤森 晴江氏

29年間、小学校の教員として多くの子どもや親と接し、退職後は、親業訓練インストラクターの資格を取得し、“親子のコミュニケーションの大切さ”を伝えるため、県内で「親育ちのための講座」を行っています。

また文部科学省事業「サポートチーム」や「家庭教育支援チーム」での活動や保護司の活動を通して、“傾聴と共感の大切さ”、“家庭の大切さ”、“家族の支えの大切さ”を強く感じました。

現在は、山梨県都留市家庭教育支援チーム「ラ・ペジブル」として活動しており、今までの活動を通して知り合った方々の支援や協力が大きな励みになっています。“相手の気持ちを受け止め、その時その時の気持ちに寄り添い”ながら“家庭の大切さ”を伝えていきたいと思い、活動を続けています。

パネリスト紹介



『障がいを持つ子供と

地域とのりん輪作り』

(りん鈴Factory)



つね しずか
津根 静香氏

大月に嫁いで、この3月で20年が経ちます。普通の結婚生活を夢見ていましたが、子どもが障がいを持つようになり、医療、教育、福祉について学ぶと言うか、知らないと生きていけない自分がいました。

10年前、自己紹介で娘の事を話すたびに涙していた私ですが、りん鈴ファクトリーの活動を通して、このような大会で発表するまでに成長させて頂きました。

今日は、せっかく来たんだから、ほんわか優しい気持ちになったり、「私にもできることがあるかもしれない」と思ってもらえるとうれしいです。



おさだ たね
長田 タネ 氏

『地域の仲間と共に』

(猿橋いきいきサロン)

私は猿橋に生まれ、猿橋に住んで居ますが、高校卒業後、進学、就職、結婚までしばらく猿橋を離れていました。しかし昭和47年、現在地に居を定めて以来、故郷のふところの温かさに包まれて安らかな日々を送るうちに、このまま無駄に年をとりたくないとの思いで、自分探しの活動を始めました。そうして出会ったのがボランティア活動であり、その活動の中でいきいきサロンの重要性を知り、自分も楽しみながら活動を続けています。

今日まで実に多くの方々に支えられて歩んで来た過程を発表させていただきます。なお、趣味はサークル「源氏物語を読む会」で原文で講義して下さる先生の深いお話に魅せられて、19年続いています。また、舞踊東山流の師範を許されており、日本の文化を心から愛する一人です。



かのう たけし
加納 健司 氏

『人づくり、地域づくりを目指して』 (大月市健やかスポーツクラブ)

私たちが、関わりを持たせていただいております「大月市健やかスポーツクラブ」は、「誰でも」「いつでも」「世代を超えて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツを」楽しめる地域コミュニティとしての「総合型地域スポーツクラブ」の特色を基調としながら、元気と健康、そして文化と連帯感に溢れた「住みよいまち大月市」のまちづくりに貢献したいとの願いを抱きながら、日々活動を展開しております。

また、子どもから高齢者まで、スポーツや運動を気軽に楽しめる場を提供し、コミュニティの活性化を図りながらスポーツによる地域づくりにも貢献できればと願っています。そして全ての大月市民にとって、親しむことができるような様々な教室やイベントを催し、スポーツの輪を広げていくことを目指しています。



おくの はるこ
奥野 治子 氏

『年中無休42年のラジオ体操』 (年中無休の御太刀ラジオ体操の会)

南に甲斐駒岳、北に八ヶ岳、東に富士山と芽岳の名水豊かな北杜市白州の台ヶ原に生をうけ、教師となり、大月の小学校でも教壇に立ちました。主人が管理職になり、私が45歳で教職を去ったのをきっかけに、御太刀ラジオ体操の会に入りました。主人は59歳で亡き人になってしまい、発起人の土屋先生が主人の恩師でしたので、主人の意思をと思い、今日まで出勤簿を持ち、会の方が持参する花を飾ったりしながら、毎日おはようの挨拶で楽しいお付き合いをさせていただきました。そのおかげで健康で傘寿を迎えることができました。

■ 趣旨説明 【大月市社会教育委員 萱沼 洋一】

ここでシンポジウムの開始に先立ちまして、大会の経緯と主旨について簡単にご説明いたします。まず初めに経緯についてでございますが、今大会は5回に渡る社会教育委員会において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会のテーマ及び内容が決定いたしました。続いて、大会主旨についてでございますが、私達の知らない色々な分野で、すでに活動を始めている方達の実践例から、「活動していくこと」それが「学び（生涯学習）」であり、「活動の輪を広げていくこと」これが「地域づくり、人づくり（社会教育）」であることを意識してもらい、何かを始めてみようとする気持ちが生きがいや、やる気となり、心の充足感や仲間づくり、地域づくりとなっていく。そしてやがてはその小さな気持ちが活力ある大月市を創り上げ、みんなの幸せへと繋がっていくことを感じてもらうことによって、行動を起こすきっかけを見出し、生涯学習への意欲を高めることを今大会の主旨としております。

**■ シンポジウム開始****【藤森コーディネーター】**

皆さん、こんにちは。私は本日のシンポジウムのコーディネーターを務めさせていただきます「都留市家庭教育支援チーム」の藤森晴江と申します。宜しく願いいたします。今回のテーマは「みんなが幸せになる活力ある地域づくり」。本日の大会が、活動を始める事で学び、人々とのふれあいから生きがいや意欲が生まれ、やがてみんなが元気に幸せになっていくための1つの機会になればと思います。大会に参加してくださった皆さんが、何か始めてみようかな、やってみようかなという気持ちになっていたようなシンポジウムになれば良いと思っております。ではここで少しだけ私の自己紹介をさせていただきます。私が所属する「都留市家庭教育支援チーム」は、予算も拠点もありませんが、文部科学省、県や市の教育委員会、富士・東部教育事務所などの行政の応援をいただき活動をしています。県内の幼稚園、保育園、小中学校を中心に親育ちの為の講座を行ったり、月に1度集まり参加者が自分の悩みを話したり、山梨県教育委員会発行の親学習プログラムを資料として学び合ったりしています。私も今から活動をお話しして下さるパネリストの方々と同じように、同じ気持ちの仲間と一緒に活動しているものの1人です。パネリストの方々が活動を通して学んだことや、気づいたことなどを会場の皆さんと一緒に考える時間にしていきたいと思っております。ここでお1人ご紹介をしたいと思っておりますが、富士・東部教育事務所の杉田眞先生をご紹介いたします。先生は私と一緒に親育ちのための講座を行っております。本日はパネリストの方々と、会場の皆さんの声を会場全体に届けてくださいます。杉田先生宜しくお願いします。



【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

宜しくお願いします。



【藤森コーディネーター】

ではシンポジウムの進め方についてご説明いたします。本日は第1部、第2部の2部構成になっております。第1部はパネリストの方々からの発表です。60分を予定しております。第2部はパネリストの方々とのディスカッションが30分、会場の皆さんからパネリストの方々へ一言いただく時間を20分としています。大きく前半、後半に分けていますが、休憩はございませんので席を外したい場合は、皆さんのご判断で休憩をとっていただければありがたいと思います。2時間という長い時間になりますので、皆さんのペースで参加していただければと思います。宜しくお願いいたします。では、発表に移ります。最初の発表は、りん鈴 Factory の津根静香さんです。やまびこ支援学校に通う子ども達の母親が、子ども達のために何かできることがないかと思い、活動を始められました。お母さん方の子ども達への温かい思いから立ち上がった活動です。発表のタイトルは「障がいを持つ子どもと地域とのりん輪づくり」です。では津根さん

■ 第1部 パネリスト発表

【パネリスト 津根 静香 氏】

こんにちは。日曜日の午後、お休みのところ、このようなかしまった大会に足を運んで頂きありがとうございます。せっかく来たんだから、ほんわか優しい気持ちになったり、私にもできることがあるかもしれないと思ってもらえるとうれしいです。

りん鈴 Factory は、平成15年、障がい者福祉の措置制度が支援費制度に変わったことをきっかけに「親が福祉について勉強していかないと、制度を理解していかないと、子どもを育てられないね。」という思いを持つ先輩のお母さんの声かけにより始まりました。そして集まったのは、やまびこ支援学校に通う小学部3年生から、中学部2年生の子どもを持つ大月市在住の母親5人でした。福祉センターに月に1回集まり、お互いの子どもの様子や、家庭生活で困っていること、学校生活でわからないことなどを話し、ストレス解消していただけかもしれません。

しかし、1年を過ぎた頃「何か私達が、子どもの為にできることはないかなあ。」という考えが生まれてきました。その頃福祉制度は、支援費制度から自立支援法になりました。「ただおしゃべりしていても時間がもったいない。」「おしゃべりしながらできる事はないかなあ。」「何かするためには、少し資金がないとできないよね。」という考えに発展していきました。また「私達にできる資金作りとは何だろう…それは手芸品を作ることかなあ。」



障がいを持つ子供と地域との
りん輪作り



ということになり、作った手芸品を好意で置いてくださる場所を探し、売ってもらうように頼み、その売上が資金となりました。おかげさまで2年目には、収益が5万円位になったので、「年に何回か休みの日に、子どもと一緒に楽しめる時間が持てるといいよね。」と考えがまとまり、療育を兼ねたイベントを企画、運営することにしました。

常にいろいろな課題が出てきますがその課題と向き合い、メンバーと考え、話を重ね活動しています。

課題の1つとしては、イベントでの参加者とボランティアとのマッチングの難しさでした。「この子は動きが大きいから、学生ボランティアがいいかなあ。」「この子は、思春期だから男性ボランティアがいいかなあ。」などその都度、その子の状態や体調を、親からの申込書を通して聞き、メンバーで決めていきました。

またボランティアに対しては、事前にイベントの内容と当日のスケジュール、担当する子どもの情報を書面にて知らせました。もし私が障がいを持つ子どもと過ごすことを考えれば、どんな子どもか分からないと不安だし、一緒に遊ぶにしても楽しめないと思ったからです。

平成19年4月に始めたイベントも昨年の8月、20回を迎えました。イベントに参加した皆さんの声を中心に、少し紹介したいと思います。会場の皆さんの中に、参加した事がある方がいらっしやるかもしれませんね。

平成19年11月に行なった「秋だからアートしちゃおう！」では、秋をテーマに自由に描いてもらいました。後半は障子紙を長く床に広げ講師が描いてくれた山々や昆虫に色をつけていきました。講師からは「ひでちゃんもとても意欲的でしたね。頑張りすぎて疲れなかったかな？無理せず形式にとらわれずこの活動を続けて行ってください。気軽にお手伝いできればと思っています。」参加者の親からは「美咲は、とても楽しかったということです。顔馴染みの子ども、お母さん達、ボランティアの方達に会えるのを楽しみにしています。」という言葉ももらいました。

平成20年8月に行なった「アートしちゃおう！ part2」では、こわぜ作業所から依頼を受け大人の障がい者の方も一緒に活動しました。前半は音楽を聞き、後半は、長いロール紙にみんなで型を使って模様を描きました。講師からは「絵を描く活動では「教える」なんてことはできませんでしたが、嬉しそうに紙に模様をつけている子ども達の顔が印象に残っています。「自分に何ができるのかなあ」などと難しく考えていた自分ですが、参加するだけでも少しは役に立っているのではないかと感じて来ました。」という感想ももらいました。

イベントをおこなって行く中で、私自身知らないうちに、充実感や幸福感を味わい、難しく考えなくても、何かやってみることで、何かを感じたり、気づいたり、学ぶことが沢山あると実感しています。

参加者とボランティアとのマッチング

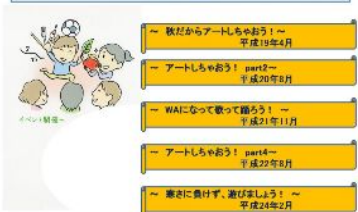
参加者の様子や親からの要望を事前に把握し、ボランティアへ情報提供することにより、お互いの不安を減らす取組をしています。

ニックネーム： ひでちゃん
年齢： 12歳
性別： 女

コミュニケーション(可) 聴覚(可) 視覚(可) 身体(可) 本音(可)
言語(可) 補助(可) 補助(可) 一語文(可)
保護(可) 補助(可) 安全(可) 補助(可) 補助(可)
多動(可) 多動(可) 体温調節(可) 補助(可)

ボランティア(要) 服装(要) どちらでも不要
ボランティアの必要がある方は、どのような内容が必要かご記入ください。
危なくなければ自由にさせてあげてください。
車椅子の使用、している(している)
好きなもの、こと
提案して欲しいもの、こと、大きな音は嫌いです。

平成19年4月に始めたイベントは昨年で20回を迎えた



イベントに参加した皆さんの声



参加者の輪が広がった

「こわぜ作業所」の大人の障がい者の方も一緒に活動しました。



・充実感や幸福感を味わう
・参加する、やってみることで、何かを模したり、気づき、学びがたくさん
【りん様インタビュー】



平成21年11月に行なった「WAになって歌って踊ろう！」では、りん鈴がリクエストした2曲をバンド演奏で聞き、みんなで歌い、そしてその曲に振り付けをしてもらい踊りました。講師からは「みんなの笑顔がたくさん見られ、自分もとても幸せな気持ちになりました。「また来てね！」と言われました。こんな風に声をかけられると今日一日だけで、とても親しくなった気がします。また明日から頑張れます。」市民ボランティアからは「何しろ初めてのお手伝いということで、最初は緊張気味でした。でもかおりちゃんと音楽を聴いているうちに気持ちもほぐれてきました。私達もまだまだ勉強中。もっともっと皆さんとお話したいと思いました。」とのメールをもらいました。



平成22年8月に行なった「アートしちやおう！ part 4」では、大月市社会福祉協議会で行っている「ぐーちょきぱー（障がい児・者社会参加交流事業）」との合同イベントが実現しました。社協職員からは「このような参加型の企画では、参加者の思わぬ一面を垣間見ることができます。今回のイベントを通して、参加者の「自由な心の発露」も大切なことと思いました。」と感想を頂きました。



平成24年2月に行なった「寒さに負けず、遊びましょう！」では、「おつけだんご」の曲にあわせた振り付けを講師にしてもらい、みんなで踊りました。今では、市内のイベントでも踊る姿がみられ、うれしいです。後半は、1万個のひのきのつみきを使って遊びました。学生ボランティアからは「最初は、障がいのある方々相手ということで、やはり、身構えていた部分はあったと思います。しかし少しずつではありますが参加しているうちに、偏見とかは薄くなってきたかなあと考えます。障がいの程度次第では難しいところがあるのを分かりつつも、普通の人を相手するように特別扱いせず、甘やかさないことも、時には大切なかなあと。ずっと理解がある人たちの中だけに居られるとも限らないですし。」とメールがありました。



先ほどは、私自身の実感を述べましたが、参加者の声を聞いていくと、子ども達、その親、講師、ボランティアなど参加者全員にも、必ず何かしらの感動や学びがあり、繋がりが生まれていると確信しています。



ボランティアに関しては、当然参加して肌に合わない方もいましたが、はまって何回も手伝ってくれる方もいました。ついには、福祉関係の仕事に進む方や支援学校の先生になる方もいました。

合うか、合わないかは、やってみなければわからないと思います。やってみようという気持ちが、その人の人生を変えているのも事実だし、その気持ちに年齢は関係ないと思います。



このようにしてイベントを行ってきた訳ですが、障がいをもつ人との関わりを求める温かい気持ちの方々と色々なボランティア団体との連携があり成り立つものでした。本当に感謝いっぱいです。この場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

次に、同時に行っていた資金作りについて、話したいと思います。そこにも多くの方々の支えや協力がありました。まず品物作りですが、当時流行っていたニードルフエルトは、おしゃべりをしながら、手芸が苦手な親でもできるのではないかと考えました。勿論、子どもを育てながらですから無理はできません。それでも子どもの事を忘れ楽しむ時間でもあった気がします。しかし、品物を5人だけで作るには限界があります。そこで趣味で手芸品を作っている知り合いはいないかと探したところ、品物を無償で提供してくださる方が現れました。初めは好意に甘え提供してもらっていましたが、売れるとこちらから「また作ってください。」と注文するようになり、材料費は気持ちで支払うようにし、お互いに続けられるような方法を考えました。今日はひな祭りですね。ニードルフエルトでこんな雛人形を作ってみました。ちょっと小さいので見にくいかもしれませんが申し訳ありません。会場の入り口の売り場でこのような手芸品を置かせてもらっています。是非帰りに見て行ってください。そして私にもこんなものが作れるんだけど、と声をかけていただくとこの大会で手芸の輪も広がると思います。



人間、目標がないと頑張れないものです。そこで、品物を各地のイベントやバザーに出店することにしました。そうすると、福祉関係以外の地域社会との繋がりが出てきました。今年度は春にはウェルネスパークでのよってって市、大月市の軽トラ市、大月市社協主催のふれあいフェスティバルなどの会場にも足を運びました。地域社会にも、障がい児の事を話すきっかけを少しつくれたかなあとと思っています。



こんな活動をしてきたりん鈴 Factory ですが、ちょうど1年前には初期のメンバーは5人から2人となり、行き詰まりを感じるようになりました。ほとんどのメンバーが支援学校を卒業していったからです。障がい児から障がい者への変化によって、当然親の望みや悩みも変わっていきます。



余暇活動よりも、学校卒業後の居場所が欲しくなりました。そんな折、ある福祉法人が大月市に障がい者支援事業所を展開しようと、障がいを持つ子の親との意見交換会が開かれ、その会に参加した際、私も親の代表の一人になりました。そこで、今までのメンバーには「活動内容を変更してもいいか」と問いかけ、やまびこ支援学校の親にはりん鈴 Factory の活動を説明し、今年度からは都留市と上野原市の親も加わり、登録メンバー18人で再スタートしたところです。



新メンバーが加わった事により、活動を始めた原点に戻り、今の時代にあった親の要望や思いを聞き、活動することにしました。今年度は、講師を招いて勉強会をひらいたり、子どもの近い将来をイメージできるよう既存の施設を見学したりしています。健常の子どもだと大学のオープンキャンパスに行ったり、就職活動をすると思います。障がいを持つ子の場合、親がまず施設を見て話を聞かなければならないと思います。そして、厳しい現実を知



ることにもなります。

はっきり言って、来年度以降りん鈴 Factory は、どんな活動をするのかまだ決まっていません。自分の子どもの為に始めた活動ですが、本当にいろいろな人との出会いが大切で、皆さんの助けがなければやっていけないことがわかりました。毎年違った課題が出てくるので、型にはまることなくできることから、一人ではできない事をみんなでやっていきたいと思います。

活動を始めたことで、沢山の気づきや学び、人々との出会いがありました。これからも、障がいをもつ子どもにとって住みやすい環境をつくる為、活動は小さいけれど、ゆっくり地域の皆さんの力もかりて、長く続けていくことが私の生涯学習そのものではないかと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

【藤森コーディネーター】

津根さんありがとうございました。発表を聞きながら本当にそうだなあと思うことがたくさんありました。どのように活動したらよいか仲間と話し合い進めたこと、参加者の輪が広がったこと、また資金作りのことなど今までコツコツと活動を積み重ねてこられた様子が良くわかりました。そこで津根さんにお聞きしたいのですが、発表の中に活動の経緯のお話がありました。集まって勉強していこう、おしゃべりしようという月に1度の集まりから、おしゃべりしながら出来ることはないかな、資金はどうするという思いになり、現在はイベントの企画、運営などの活動をなさっていますね。現在の活動に至るまでには節目節目でいろんな思いがおありだったと思います。私達のチームの活動の始まりは、ファミレスでの勉強会だったのですが、津根さん方の活動がスタートした時の様子をお聞かせください。

【パネリスト 津根 静香 氏】

私達も先生がお話ししたファミレスのスタートっていうところに似ていると思うのですが、とても小さなものでした。でも似たような環境の人との出会いがあり、他愛もないおしゃべりが始まりでした。でも今思うと、そのおしゃべりが必要で大切だと思っています。その中で共通の思いや願いが出てくると何かを起こすきっかけができるのではないかと思います。どうでしょうか。

【藤森コーディネーター】

本当にそうですよね。活動は、さあ活動を始めるぞ、準備は出来たぞっていうのではなく、みんなで集ってみるといような、ほんのちょっとした集まりから始まるんですよね。私も津根さん思い出しました。こんなことをしてみたい。えーそんなすごいこと出来るの？何年か先はね、などとチームのメンバーと会話が弾んだものです。活動のスタートは集まって話してみるということが大事ですね。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

藤森先生、ここに持っているのがお母さん達が作っていただいた熊さんなんですけど、かわいいですよね。これを作ったんですよね。これフェルトなんですけれど、すごく癒される



顔なんです。自分に似て自分のおなか触っているような感じもして非常にやわらかいんですけども、これがりん鈴の1つの輪ということですよ。会場の皆さんも入口でちょっとねご覧になったかと思いますが、とっても表情豊かで癒される物もありますのでよかったです。ちょっとだけ興味を示してもらえるといいかななんて気がしますけれども。

【藤森コーディネーター】

ここにも先生付いているんですよ。いっぱい私今日付いてますでしょ。このコサージュも売ってます。ちょっと宣伝ですけど、させてください。ありがとうございました。



【パネリスト 津根 静香 氏】

ありがとうございました。

【藤森コーディネーター】

津根さんありがとうございました。では続いての発表は、猿橋いきいきサロンの長田タネさんです。サロンの活動の様子や昨年より猿橋小と連携して行っている高齢者と児童とのふれあい事業の様子などをお話ししていただきます。いつまでも元気でいられる秘訣も教えていただけそうです。発表のタイトルは「地域の仲間と共に」です。では長田さんお願いします。

【パネリスト 長田 タネ 氏】

こんにちは。ご紹介をいただきました猿橋の長田タネでございます。私に与えられたテーマは猿橋いきいきサロンですが、私の長い



ボランティア活動の延長線上に今日のいきいきサロンの活動があるわけで、ここに辿りつくまでの道のりからお話しさせていただきます。

昭和60年大月市の指導で、ボランティア連絡協議会が誕生しました。その役員として活動を始めて以来、今日まで人生の3分の1以上の歳月を福祉行政のお手伝いをさせていただいた、と自分なりに思っています。初期の頃は、ボランティアとひと口に言っても、あまりに広範囲で、また活動の指針といったものが無く、何をすればよいのか戸惑っていたのですが、皆で相談しながら学習し、様々な活動を展開する中から次第に会としての方向性が見えてきました。その頃から、遠からず超高齢化社会に直面することが大きな話題になっていたのも、自分たちも決して避けられない現実であることに気付いたのです。

会が発足した翌年でした。活動資金が無ければ、会議の際にお茶も飲めない状況だったので、「とにかく資金を作らなければ」との思いで、バザーを開いて売上金の一部を、市社会福祉協議会に寄付することもでき、会の資金も生まれたのです。このバザーは大月市ボランティア連絡協議会主催で何年か続けま



したが、市社会福祉協議会が年間行事に取り入れ、今や大月市としての大きな行事となっている福祉バザーの始まりとなりました。

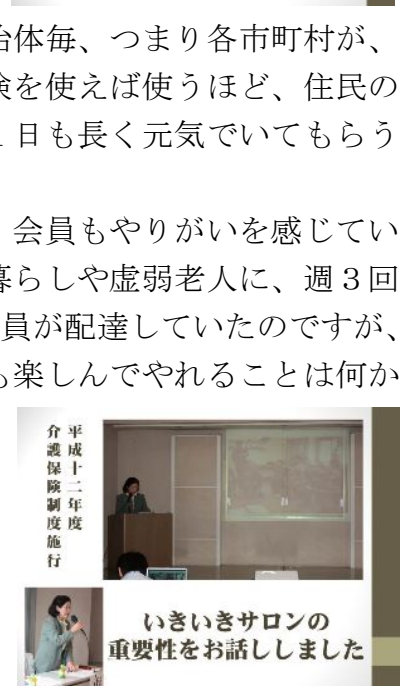
このようにちょっとしたきっかけで始めた小さな活動も、大月市を活性化させる可能性を秘めているのではないかと思います。

猿橋ボランティア協議会としては、平成元年に町内の70歳以上の1人暮らし老人を、公民館に招待して、食事会の後、カラオケ、舞踊、かくし芸、俳句や短歌を楽しむ人には、作品を披露していただくなど、見せていただく、聴かせていただくをモットーに、独居老人交流会ニコニコサロンとして開催しました。回を重ねるにつれて、健康維持のメニューも取り入れて、簡単な体操や、ゲームなども楽しんでいただいたので、会が終わって帰る時には、「本当に楽しかったです。来年も呼んでくださいね」と眼をうるませて、手を握って下さる人が何人も居て、ボランティア活動の真の喜びと共に、大勢が力を合わせれば、どんな大きな事も成し遂げられることを知りました。これは第1回のバザーを成功させたときの感動と同様です。この写真は、1つ手違いで紛れ込んだみたいですが、これも猿橋の公民館活動をしているフォークダンスの会の練習風景ですけれども、この会の方々にも大勢今の猿橋いきいきサロンを支えてくださっている方が大勢いらっしゃいます。

人様に喜んでもらえる幸せが、自分自身に震えるような感動と勇気を与えるのです。この事業は、今も猿橋ボランティア協議会の後輩たちが毎年続けてくれています。そうして、これが今日の猿橋のいきいきサロン盛況の原点だったのだと、古い資料を紐解いて改めて気付きました。

平成12年に介護保険制度が施行されました。この制度は自治体毎、つまり各市町村が、それぞれ独自に運営するもので、その市や町の高齢者が介護保険を使えば使うほど、住民の負担が大きくなる仕組みになっているわけですから、高齢者が1日も長く元気でいてもらうことが、自治体の大きな課題なのです。

それまで大月市ボランティア連絡協議会の大きな事業であり、会員もやりがいを感じていた配食サービスが業者に委託されたのです。これは市内の一人暮らしや虚弱老人に、週3回手作りのお弁当を届けるために、ボランティアが調理して民生委員が配達していたのですが、これが無くなったので、これからの時代に合った事業で、会員も楽しんでやれることは何かと考えました。そんな折、先進地では「いきいきサロン」という活動が広まり始めたことを知って、たまたま私が、大月市ボランティア連絡協議会会長と民生委員とを拝命しておりましたので、両方の会議の際に、介護予防運動としてのいきいきサロンの重要性を話させていただきました。これに多くの方が賛同して下さって、あっという間に平成14年には、猿橋に7ヶ所、市内にも数ヶ所のサロンの立ち上げを見たわけです。



私が所属している「いきいきサロン小柳元気会」では、その名の通り「楽しく、元気に」を合言葉に、出来るだけ体を動かすようなメニューを心がけています。笑いの絶えない午後のひと時を皆が待っているのです。マナーを防ぐために、12月にはクリスマスの雰囲気、キャンドルサービスやクリスマスの歌でちょっと気取ってみたり、新年会には私の方言入りの桃太郎伝説を寸劇に仕立てて盛り上がりつつあります。これには器用なボランティアさんが衣装をつくってくれます。又、春には、すぐ上の桂台に行ったことが無い人が何人も居ることがわかって、「遠足というより、近足だね」と笑いながら、新しいエレベーターで登ると、すぐ眼下に広がる我々の町、その向こうには新緑の扇山、百蔵山、岩殿山と、その山裾の集落や川の眺めは、毎日見ている風景でも、ちょっと角度が変わっただけで素晴らしいものです。「おかげでいい冥土の土産が出来たよ」の言葉には嬉しくもあり、淋しくもありの複雑な気持ちでしたが、皆が喜んでくれたので素晴らしい一日でした。

話は前後しますが、サロンを立ち上げて11年間、1番心に残ったことがあります。元気会を1番楽しみにしていた女性に起こった災難を、近所の会員が数名で連携プレイで助けて、福祉センターの相談室に連絡して、翌日には施設に入れてもらったので、大事に至らずに済みました。この方は施設で今も元気に暮らしています。ご近所や会員同士のつながりの大切さを、つくづく実感した出来事でした。

それ以来、近所同士の見守り意識が、日常生活に根付いたような気がします。猿橋のサロンが、今年は18ヶ所になりました。大月市全体で64ヶ所、28%を猿橋が占めているのです。

このように多くのサロンが立ち上がったので、猿橋だけの合同サロンを開いてみようかと云うことになり、地区社協にお願いして、第1回の22年度には、県社協からレクリエーション指導の素晴らしい先生をお迎えして、爆笑いっぱい楽しい時間でしたが、会場が狭いので各サロンの参加者数を限定して開催しました。希望者全員が参加できるような広い会場が出来たらと思いました。

第2回の23年度、第3回の今年度は、場所も内容も大きく変更して、猿橋小の1年生との交流会になりました。昔の遊びを教えてほしいとの学校側の要望に応じて、お手玉、あやとり、メンコ、コマ、竹馬等10種類の遊びを用意して、やり方やコツを教えながらも、皆童心に戻って子供たちと楽しく遊びました。私はおはじきのコーナーに数人ではりついて、5~6人のグループで順に廻ってくる子供たちと遊ぶのです。ここで、映像がありますのでご覧ください。





どのグループにも聞いてみました。

「ねえ、あんた達はふだんお家や友達と遊ぶ時は、いつもゲーム機で遊ぶんでしょ？」

「ウン、そうだよ」「それと、こういうのと、どっちが楽しいかな？」「こっちの方が楽しい！」

と瞳を輝かせて異口同音、例外なくこの方が楽しい、と答えたのです。子供の体力が年々落ちているそうですが、さもありなん、遊ばなければ、心も身体もたくましく育ちません。

小柳元気会の話ばかりでしたが、猿橋の18ヶ所を含む、市内の64ヶ所のサロンのすべてが、それぞれ特徴ある活動で高齢者のコミュニケーションを支えています。

年老いて、1年毎に親しい友人や茶飲み友達が減っていくのは、言い知れない淋しさを感じるものです。その度に心の扉に鍵を掛けて、家に閉じこもってしまう人もいるでしょう。そういう人を誘いだして皆で支えるのもいきいきサロンの目的です。そうして、この課題は地域社会が続く限り、終わらせてはいけないと思います。

このような活動を続けてきた結果、市内至る所に友達が出来て楽しいです。又、頼りにしてくれる方、背中を押して励ましてくれる方、たくさんの方々のご協力と支えがあってこそ、今日まで活動を続けられた原動力になっているのです。この場をお借りして、本当に多くの皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

けれども、今の私たちには、後継者が入ってくれないという悩みがあります。まだまだ老人と言われるのは抵抗のある人でも、年々確実に歳を重ねるわけですから、地域のお付き合いを大切にすることが、楽しい老後になるはずです。

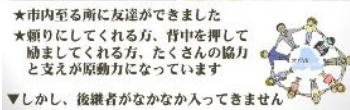
まだ自分は若いと思っている方をお願いします。趣味の会やお食事会も勿論楽しいし大切ですが、社会参加型の活動は、幅広い年代の人との交流から、また違った感動や学びがあり、人とのつながりによって自分を高めることができるのです。その第1歩として、楽しみながら町内の人達とお近付きになれる、いきいきサロンに是非とも参加してみたいと思います。



子供は元気よく飛んではね



★市内至る所に友達ができました
★頼りにしてくれる方、背中を押して励ましてくれる方、たくさんの方の協力と支えが原動力になっています



▼しかし、後継者がなかなか入ってきません



いきいきサロンに是非参加してみてください！
ご清聴ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

【藤森コーディネーター】

長田さんありがとうございました。何をすればよいか戸惑っていたが、皆で相談しながら学習し、活動を展開する中から会としての方向性が見えてきたというお話がありました。スタートは津根さんと同じように皆との話し合いからだったのですね。またお話しの中に活動を通していろんな方々と繋がっているというお話がありました。社会福祉協議会、市ボランティア連絡協議会、民生委員、地域の方々、子ども達など活動をする上で繋がるということを長田さんはどのように感じていらっしゃいますか。

【パネリスト 長田 タネ 氏】

人は会うほどに親しくなれるといいます。社会活動を続けると人様との繋がりは自然に幅広くなります。ボランティア協議会と民生委員とを併せてもっていた時代には、どちらの会も切り口は違っても結局ボランティア活動ですからすぐに意気投合します。そういう方々が網の目のように繋がっているわけですから、いきいきサロンの立ち上げもこれだけ多くなったのだと思います。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございました。今お話しして下さったように活動を始めると自然といろんな方々との繋がりが生まれてきますよね。分からないから聞いてみようとか、こんなことしている人達がいるみたいだよ、話してみるとか、またあの人達と一緒にしてみたいなと繋がりのきっかけは活動をしながら出てきますよね。その繋がりからまた違う方々との繋がりが生まれてくるんですよね。その方々が行政の方だったり、他団体の方だったり、また地域の方々にも広がっていきますね。人との繋がりを通して私達って感動したり、学ばせてもらっているなど思うことが多いですよね。実は会場の皆さん、この大会で私達も繋がらせていただいたんです。今日控室へ入りましたら、1番最後に発表をしていただく奥野さんが、このブローチを渡してくださいました。ここで会えたからね、これも縁だよ。じゃあまた会いましょうねってそこで話になったんですよね。やはりこの大会も私達が繋がらせていただけの1つのきっかけなんです。こんなところから人って繋がっていくんだななんてことを、この今ブローチを付けているんですが、そんな奥野さんとのお話からも私は強く感じました。長田さんありがとうございました。では続いての発表は、大月市健やかスポーツクラブの加納健司さんです。山梨県下で行っているのは大月市のみという介護予防運動をはじめ、フットサル、健康体操、グラウンドゴルフなど住民が生涯スポーツに親しむ社会を目指して活動していらっしゃいます。スポーツクラブでは世代間の交流もあるというお話も伺っています。テーマは「人づくり、地域づくりを目指して」です。では加納さんお願いします。



【パネリスト 加納 健司 氏】

皆さん改めましてこんにちは。ご紹介をいただきました大月市健やかスポーツクラブの加納健司でございます。どうぞよろしく申し上げます。



本日は皆さん方の貴重なお時間をいただきながら、大月市健やかスポーツクラブにつきましての、発表をさせていただきますことを、心より感謝申し上げますとさせていただきます。

ご承知のように、近年わが国の教育界では、様々な改革が打ち出されております。この一連の改革の根底には、学校も含めて地域ぐるみで次の世代を育てることが極めて重要であるとの認識があります。

また、少子高齢化の進展に伴いまして、生涯学習の重要性も叫ばれているところでございます。こうした中で人生80年時代と云われますこの長寿社会を、心豊かな生きがいのあるものにしていくためには、健康や体力の維持、増進に努めながら、世代間を超えた交流が必要であると云われております。こうしたことから、今後とも生涯スポーツ社会をつくっていくことが大変重要であるとされております。

ここで云う生涯スポーツ社会とは、国民のだれもが、いつでも、どこでも、スポーツに親しむことができる社会であると云われております。

そして文部科学省では、新しいタイプのスポーツクラブとして、総合型地域スポーツクラブを提唱し、全国の市町村に少なくとも、1つこのスポーツクラブを育成することを目標としております。

この総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が自主的・主体的に運営するスポーツクラブでありまして、身近な学校や公共スポーツ施設などを利用し、家族全員が加入しても負担にならない程度の会費で、誰もが生涯にわたって楽しむことのできるような組織の形や考え方を持ったスポーツクラブであると云われております。

こうした状況の中で大月市でも、文部科学省の提唱を受けて、平成14年8月に市の教育委員会が総合型地域スポーツクラブの設立に向けて設立検討委員会を発足させ、地域に即したクラブの立ち上げについて検討を開始したのであります。

当時は一般的に、このスポーツクラブに対しての認識が浅かったものですから、検討委員会では先進地のスポーツクラブを視察したりして、研修を重ね、平成16年5月に検討委員会を発展的に解消して、設立準備会を立ち上げたのであります。

そしてこの設立準備会では、スポーツクラブの設立に向けた活動が続けられ、介護予防運動に関する教室を中心に、老人クラブなどの協力を得ながら、市内の各地域で教室を開催したり、また、スポーツフェスティバルを開催したりして、ソフトバレーボールやスポーツ吹き矢などのニュースポーツの普及にも努めました。

こうした間にも、大月市教育委員会の協力や、山梨県体育協会からの指導、助言を得ながら、事業の維持や広報活動にも積極的に取り組み、小さく立ち上げて、大きく育てようとの考えを基に、

平成25年3月3日(日)

第51回大月市生涯学習推進大会

大月市健やか スポーツクラブ

(総合型地域スポーツクラブ)

発表者：大月市健やかスポーツクラブ 会長 加納健司



少子・高齢化の進展 → 生涯学習の重要性

人生80年時代



健康や体力の維持増進・世代を超えた交流

生涯スポーツ社会


生涯スポーツ社会とは？

国民の誰もが、
いつでも、どこでも、
スポーツに親しむことのできる
社会である。



「総合型地域スポーツクラブ」の提唱

総合型地域スポーツクラブとは？

- ・自主的、主体的に運営 
- ・身近な学校や公共の施設などを利用
- ・家族全員が加入しても負担にならない程度の会費
- ・誰もが生涯にわたってスポーツを楽しむことができる

沿革について

- ・平成14年8月 教育委員会が、「設立検討委員会」を発足
- ・地域に即したクラブの立ち上げ方法について、検討を開始
- ・先進地視察など研修を重ねる


平成16年5月
「設立準備会」を設置



設立準備会

「介護予防運動に関する教室」を中心に、老人クラブなどの協力を得て、市内各地域で教室を開催



「ソフトバレーボール」や「スポーツ吹き矢」などの
ニュースポーツの普及にも努める 

平成20年3月29日

「大月市健やかスポーツクラブ」設立大会



平成20年3月29日に、総合型地域スポーツクラブの大月版であります大月市健やかスポーツクラブの設立大会を開催するに至りました。

この写真は設立大会の当日に来賓としてご出席いただきました大月市長石井由己様からご祝辞をいただいているものでございます。

こうして設立されました当スポーツクラブは、現在までに会員や関係各位のご理解、ご協力とご支援のお陰をもちまして、順調に充実し発展してきているものと思われまます。

それでは次に、当スポーツクラブに関しての具体的な事柄に移らせていただきます。

まず初めに、当スポーツクラブでは、その目標を達成していくために、次のように組織を定め、当初は実施種目をフットサル教室、軽スポーツのグラウンドゴルフ教室、介護予防健康体操教室の3つにしぼりました。

そして平成24年1月に新たに健康体操教室を加えまして、現在は4つの教室で活発な活動を展開しております。

次に、平成25年1月現在の会員の状況をお示しいたします。まず、全会員の状況です。ご覧のように273名の会員を擁しております。そしてそれぞれ4つの教室における会員の状況とその特色は次のようになります。

フットサル教室です。特色は幼児から小・中学生を含め10代が多く、成人も参加しております。

軽スポーツのグラウンドゴルフ教室です。特色は60代から70代が多く、80代も参加しております。

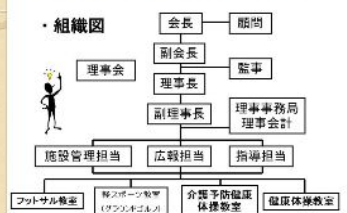
介護予防健康体操教室です。特色は60代から80代の女性が多く、90代も参加しております。

健康体操教室です。特色は壮年の女性が多く、現在は女性のみが参加している。

また、当スポーツクラブでは、平成20年3月の創立以来、毎年秋にそれぞれの教室の会員と市民の希望者が一堂に会して、いろいろなニュースポーツを体験しながら互いに交流を図ることを第一の目的として健やかスポーツフェスタを開催し、平成24年度で5回目を数えております。

次に年会費等についてであります。年間登録料、年会費でございますけれども1000円です。ファミリー年間登録料2人目からは500円になります。各教室への参加料でございますが、フットサル、グラウンドゴルフは1回100円いただいております。健康体操教室は、1回300円でございます。介護予防健康体操教室は、年間1000円でございます。それからスポーツ保険料でございますが、大人は1600円、子どもが600円、65歳以上は800円です。これらのことを基にして各教室が原則週1

（表 1）
組織図と活動種目について



- ・活動種目
- ◎ フットサル教室 毎週木曜日
18:00~21:00 勤労青年センター体育館
 - ◎ 軽スポーツ（グラウンドゴルフ）毎週水曜日
【月に計画する】
9:00~12:00 主に市営陸上競技場
 - ◎ 介護予防健康体操教室 毎週金曜日
9:30~12:00 富浜出張所
 - ◎ 健康体操教室 毎週木曜日
19:30~20:45 市民会館

（表 2）
平成24年4月~平成25年1月
現在の会員等の状況

	男	女	計
全教室会員	104	158	262
フリー会員	5	0	5
賛助会員	6	0	6
合計	115	158	273

フットサル教室

男	女	計
63	14	77

小・中学生と10代が多く、成人も参加している。

軽スポーツ教室（グラウンドゴルフ）

男	女	計
34	29	63

60代~70代が多く、80代も参加している

介護予防健康体操教室

男	女	計
7	33	40

60代~80代が多く女性が多い。90代も参加している。

健康体操教室

男	女	計
0	82	82

壮年の女性が多く現在は女性のみが参加している。

回ずつ活動しております。

それでは最後になりましたが当スポーツクラブとしての今後の課題と展望について、ご説明申し上げます。

まず初めに当スポーツクラブの活動は、地域の方々と行政のご理解とご協力のお陰をもちまして、年々充実し発展してきているものと、心より感謝申し上げる次第でございます。

さて本来スポーツは、高齢者、女性、子どもも含めて、全ての人が、自由に楽しめるものでなければなりません。したがって、今後の課題といたしましては、地域住民が気軽にスポーツ活動ができるように、行政の理解と協力を得ながら環境作りをしていく必要があります。

また、受益者負担の原則に従いまして、地域が一体となって生涯スポーツ社会の構築を目指すような意識改革も必要ではないかと思えます。

それから当スポーツクラブとしての今後における展望を考えます時に、誰もが気軽に参加できるようなニュースポーツを可能な限り多く取り入れていくことを考えていきたいと思っております。そして会員や関係各位と力を合わせて、青少年の健全育成や高齢者や女性を含めた全ての地域住民の健康や体力の維持増進など、スポーツを通して「明るいまちづくり」に貢献できるような活動を続けていければと、心より願っているところでございます。

以上で私の発表を終了とさせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございました。加納さんの発表の中に、スポーツは高齢者や子どもを含めすべての人が楽しめるものというお話がありました。そこでいろんな年齢層の人達との交流があるんですね。ところで加納さん、スポーツクラブに来られる皆さんはスポーツを通してたくさん充実感があると思いますが、運営に携わっている方々も運営を通していろんな思いがあたりだと思えます。運営なさっている加納さんはどんなことを感じていらっしゃるのか。

【パネリスト 加納 健司 氏】

それではお答えをしたいと思います。まず運営する側の思いでございますけれども、文部科学省からの依頼を受けまして、市の教育委員会が昭和39年から毎年でございますが、実施しております体力測定があるんですけれども、当スポーツクラブの介護予防健康体操教室とグラウンドゴルフ教室の皆さん方にも参加していただいております。その測定の結果でございますが、皆さん実際の年齢の平均値よりも良い結果が出ているようでございます。このように目に見える形で、日頃の活動の成果が出ていることが分かりますので、会員の方々のやる気にも繋がるのではないかと思いますし、運営する側といたしましても大変うれしいことでございます。また当スポーツクラブにはスポーツを通して子どもから高齢者まで、皆が

健やかスポーツフェスタ



年会費等

〔表 8〕

年間登録料(年会費)		1,000円
ファミリー年間登録料(2人目より)		500円
教室の参加料	フットボール・ソフトボール・バレーボール 1,000円 健康体操教室 300円 介護予防健康体操教室 1,000円	
スポーツ保険料		
大人		1,600円
子ども		600円
65才以上		800円

課題と展望

課題

- ・地域住民が気軽にスポーツ活動が行える環境づくりのため、行政の理解と協力が必要である。
- ・受益者負担の原則に則り、地域が一体となって、「生涯スポーツ社会」の構築を目指すよう、意識改革が必要である。

展望

- ・誰でも気軽に参加できるニュースポーツを多く取り入れ、青少年健全育成、高齢者健康保持など、スポーツを通して明るいまちづくりに貢献するクラブ活動を続けて行く。

ご清聴ありがとうございました。

健康になって明るい町づくりに貢献できればという思いがあります。そして次に何が運営する側の原動力になっているかと申しますと、会員の方に町で会った時などの元気にしている姿やスポーツを楽しんでいる時の皆さんのいきいきとした笑顔を見れることも、クラブを続ける意義を感じて、その活動の原動力となっているのではないのでしょうか。以上でございます。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。スポーツクラブに参加して下さっている方から喜びの声ってうれしいですね。活動に参加する側にも、また企画運営する側にも大きな喜びや感動がありますね。先程の長田さんの発表からも分かるように、昔の遊びを教える方も、教わる子ども達もとても楽しそうです。また津根さんの発表の中にも、参加者全員に必ず何かしらの感動や学びがあり、繋がりが生まれているというお話がありました。だから私たちは活動を始めて何とか長く続けていきたいと思うようになるのですね。加納さんありがとうございました。

【パネリスト 加納 健司 氏】

ありがとうございました。

【藤森コーディネーター】

では最後の発表になります。最後の発表は年中無休の御太刀ラジオ体操の会奥野治子さんです。40年以上続く地元独自の事業です。40年以上続いているということはすごいことです。しかも年中無休ということですから本当にすごい。毎日続けられたすごさを是非お聞かせいただきたいと思います。テーマは年中無休42年のラジオ体操です。では奥野さんお願いします。

【パネリスト 奥野 治子 氏】

皆様こんにちは。ただいまから、年中無休御太刀ラジオ体操42年の代表をしましてお話しさせて頂く、奥野治子と申します。よろしくお願いたします。最初に御太刀ラジオ体操の会の歴史からお話しいたします。

昭和46年(1971年)8月11日に当時の大月市、御太刀区長、市体育主事、市職員等が協議してラジオ体操の会をつくり、同年10月に会の規約を作り、大月短期大学校庭にて年中無休で継続して実施する事として第一歩を踏み出しました。今年、平成25年8月11日で創立42周年を迎えます。当初3名で始めましたラジオ体操の会も多い時は50名以上の会員が在籍しておりましたが、この数年は40名前後で活動しており、現在会員38名(男子25名、女子13名)で文字どおり年中無休で、雨が降ろうが、台風がこようが活動しています。年齢は47歳~90歳、平均年齢75歳の健康軍団です。また、昭和50年から山梨県体育祭で始めて体操競技があり、昭和63年度まで通算して13回出場しました。



年中無休の御太刀ラジオ体操の会は、団体として文部大臣をはじめこのような表彰を授与されてきました。昭和61年のスミセイ健康財団の第1回団体表彰を受賞した際には、放送施設の寄贈を受け、大月短期大学附属高等学校の格別の御好意により校庭の端の放送柱に器具を設置させていただきました。

個人表彰も、このように多くの表彰を受賞しております。平成6年8月には、土屋氏が松山市で開催された、第33回1千万人ラジオ体操中央大会で、文部大臣、日本放送協会長、全国ラジオ体操連盟会長の3者連名による全国表彰を受賞しました。

御太刀ラジオ体操の会は年間365日（閏年は366日）大月短期大学附属高等学校校庭で実施する事が原則ですが、年に3回だけ他の場所で実施しています。それは、元旦体操会、お花見体操会、紅葉狩り体操会の3日です。このように場所を変えて実施することは、四季それぞれ会員のふれあい交流の場として、またマンネリ化を防ぐと共に、岩殿山にまだまだ十分登れるのだと云う自分自身の健康管理のバロメーターにもなればと、そんな事を目指して始めました。

元旦体操会。昭和50年1月1日より毎年岩殿山頂（標高634m）で実施し、終了後お屠蘇を祝い、初日の出を拝し万歳三唱で解散しています。平成7年1月1日からは丸山公園で行う事にしました。平成25年で第39回を数えます。

お花見ラジオ体操会。昭和58年4月より岩殿山丸山公園で実施し、毎年4月に実施しています。本年で31回を数えます。

紅葉狩り体操会。昭和59年11月に岩殿山丸山公園で実施し、毎年11月に実施しています。本年で第30回を数えます。

また、毎年8月には区内の小学生の夏休み体操を指導しています。近年は期間も7日間と短く、参加する小学生も7～8名と少子化の現実をひしひしと実感していますが、子どもやそのご家族とふれあう貴重な時間だと思えます。富士見台地区でも会員の方が同じく指導しています。また平成5年8月16日に第23回全国巡回ラジオ体操大会が、大月市立短期大学校庭で開催され、小雨の中、元気一杯参加しました。参加者は2千名と放送されました。

毎朝のラジオ体操は各自が出席簿にチェックを入れる事から始まります。以前は責任者が会員の出席を筆記していましたが、5年前から会員各自が自分で記入する方法に変えました。年齢を重ねると今日は何日かと、とまどう事があるのでその事を防止する意味も兼ねてこの方法に決めました。体操が始まると、示範者が会員の前に立って見本を示します。示範者は現在8名おり、指導者講習会を終了した会員が交代で務めています。

ラジオ体操会では出席日数により、皆勤賞、精勤賞の表彰制度を設けています。

この表彰制度は昭和53年より始まり、当初は年間200日以上出席者を精勤賞として


団体表彰

昭和50年 関東郵政局、関東ラジオ体操連盟会長、NHK放送総局長の三者連名による団体表彰

昭和58年 文部大臣より社会体育優良団体表彰

昭和61年 スミセイ（住友生命保険KK）健康財団より第1回団体表彰

県知事さんも来ていただきました



個人表彰

昭和54、58、甲府郵便局長、NHK甲府放送局長、62年、平成元年 山梨ラジオ体操連盟会長からの表彰

昭和59年 関東郵政局長他2団体長連名表彰

平成6年 文部大臣、日本放送協会長、全国ラジオ体操連盟会長からの全国表彰



年に3日だけ違う場所で実施

- ①元旦体操会 
- ②お花見ラジオ体操会 
- ③紅葉狩り体操会 

①元旦体操会




平成25年は39回目

②お花見ラジオ体操会 ③紅葉狩り体操会




本年31回目 本年30回目

出席簿は各自でチェック



講習会を終了した示範者が見本となる

いましたが、昭和55年より年間300日以上出席者に授与する事と決定し現在に至り、毎年4月の総会の席上で対象者に表彰状が会長より授与しています。過去の精勤賞は平成18年より延べ123人となりました。会員が自分自身の健康管理の為に継続は力なりと参加するひとつの目標としてこの表彰制度を設け、会員は去年は300日を出席できなかったが、今年こそはと頑張っている状況です。

昭和62年には、小俣氏が年間出席日数で366日(閏年)と云う偉業を達成しました。これは会発足以来唯一人と云う驚異的な記録でした。そして平成23年度に金沢さんが女性として初めて366日(閏年)の皆勤出席と云う偉業を達成しました。また平成20年度21年度には女性2人が365日の皆勤出席を達成されました。このように長年毎日のように会員同士、顔を合わせ話をしていますので、親戚よりも長い付き合いをしているようにも思います。また、他にも1万日達成者や30年永年参加者なども表彰しています。

毎朝10分間のラジオ体操に休むことなく365日出席出来る事、また40年間出席出来ると云う源は何でしょうか。会員の方からはこんな声が聞かれます。

Aさんは1日も休むことなく続けてられて来たのは会員全員が健康志向、朝の情報交換と同一の考えを持っているからこそ今日が有り、今後も永続すると思えます。


毎日出席簿が置いてある大月短期大学の東屋のテーブルには、四季折々の花がきれいに化粧した花瓶に生けられて有ります。これは会員の女性の方々が自分の家や途中の道端に咲いている花を持ってきてくれますので、それを工夫して飾っています。冬季は花瓶の水が凍りますので、造花を用意して彩を添えています。男性群もこれは何の花。カトレア。胡蝶蘭。などと朝の話題に花が咲きます。

Bさんは、体操は6時30分から僅か10分間ですが、この為には起床6時、就寝10時半を守っています。またラジオ体操は勝敗を争うスポーツでは有りませんので、自分自身の健康作りの為であるという、強い自覚がないとなかなか継続しません。克己心を持って頑張ることです。他からの強制ではなく、全く各人の自由意思によるものですから、貴いものだと思います。

ご夫婦で参加されている何組かもあります。お互いに励ましあいながら「継続は力なり」と出席しています。会員の中には体操の前に30分以上歩いて来る人、また体操の後に歩きに出かける人と各自健康管理に努めています。

会員皆に共通する気持ちは、健康は自分自ら管理するものであるということ。毎日の放送の前にアナウンサーが、月に4~5回は僅か10分の体操ですが、「継続は力なり」と、そして小さな積み重ねの習慣が健康の元だと放送します。こういう気持ちや、この新聞記事にもあるように、仲間とのつながりや心の健康というものも、体操を続けて行こうと云う皆の原動力になっているのではないかと思います。

継続のための1つの目標として、昭和53年より皆勤賞と精勤賞の表彰制度を設ける



他にも・・・
1万日出席達成者や30年永年参加者に表彰

精勤賞(年間300日以上)は
平成18年度から延べ123名!!

皆勤賞


昭和62年に小俣氏が年間出席日数366日(閏年)の偉業を達成!!

平成23年に金沢氏が女性として初めて年間出席日数366日(閏年)の偉業を達成!!

平成20, 21年には女性2人が年間出席日数365日の偉業を達成!!

出席し続ける源は何でしょう?

- ・会員全員が健康志向
- ・朝の情報交換
- ・克己心
- ・強制ではない、各人の自由意思



継続は力なり!!




ラジオ体操 実存40年

仲間とのつながり心の健康に

最後に私ごとで恐縮ですが、今年で体操33年の出席となります。現在は毎日の出席表の管理を、4月には年会費（最初は年間200円、現在は年間600円）の集金等を手伝っています。自分の健康管理も含めて毎晩10時半には床につき、冬だと4時半には起きて、運動場に着くと、グラウンドを軽くジョギングします。私がラジオ体操に参加するのは自分の健康管理と云う事もありますが、他にもう1つの理由があります。私の主人にとりまして、ラジオ体操の会の創設者の1人である土屋璋先生は都留中学時代の恩師でした。自分も退職したら土屋先生のお手伝いをしながらラジオ体操に参加するのだと私に話していましたが、退職を前に59歳で亡くなりました。そんな事もありまして亡き主人の気持ちも併せて参加し、亡き主人の分もお手伝いしています。

年中無休の御太刀ラジオ体操の会といっても、会員は、駒橋地区、大月地区、富士見台地区からも参加しています。何をするにも心と身体の健康からだと思えます。興味ある方は自由に参加してください。この33年間続けられた私のあれは、仲間達と家族の協力があったからこそ今日があるのだろうと感謝しています。長い時間お付き合い下さいましてありがとうございます御座いました。


ラジオ体操に参加して33年
参加には健康管理と
もう1つ理由が・・・



亡き主人の分もと
お手伝いしています。

年中無休の御太刀ラジオ体操の会ですが、他地区からの参加者もいます

何をするにも心と身体の健康から



自由に参加してください。
お付き合い下さいましてありがとうございます御座いました。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございました。奥野さんは退職したらラジオ体操のお手伝いをしたいという亡きご主人の気持ちも併せて活動に参加していらっしゃる。毎日毎日参加している活動です。奥野さんの発表の中で、同じ考えを持っているからこそ今日がある、同じ思いの仲間がいたからこそ継続できたというお話がありましたが、本当にその通りですね。ところで同じ思いの方々はどうのようにして集まって来られたのですか。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

すいません。今全部話きってちょっと喉が渴いているので、少し潤してあげてください。お願いします。藤森先生さっきから加納先生の話にしても、とても大月の方達ってすごく元気ですね。

【藤森コーディネーター】

元気ですね。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

それで笑顔がとても溢れているなんてそんな印象を受けました。大丈夫ですか。ではお願いします。

【パネリスト 奥野 治子 氏】

体操に来ている仲間は親戚同様と思う。それで習慣になっているからつい足が向きます。そして病気をしたり怪我をした人が、入院した時に何でこんなに早く元気になれたかって、やっぱりそれはラジオ体操をやっていたからとおっしゃっています。



【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。奥野さんの周りの方達は本当に親戚の方と同じような気持ちと一緒に活動をなさっているということですね。やっぱりそういう気持ちって大事ですね。活動を続けていく上でも、本当に何でも話ができるっていう関係を作っていたらいいなと私も思いました。奥野さんありがとうございました。

では会場の皆さん、以上で第1部を終了いたします。会場の皆さん同じ姿勢でお疲れになったことでしょうか。ここで少し体を動かしましょう。年中無休御太刀ラジオ体操の会の皆さんと一緒に体操をしましょう。会場の皆さんはその場で出来る範囲で体を動かしてください。ここで、ラジオ体操示範者の方のお名前をご紹介します。小俣様、金沢様、井上様、奈良様です。では御太刀ラジオ体操の会の皆さんお願いいたします。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

どうぞ会場の皆様もよかったら広いところに出ていただいて少し体を動かした方が、座りっぱなしですので。



【藤森コーディネーター】

ありがとうございました。さすが毎日やっていらっしゃるだけあって素晴らしいですね。では会場の皆さんもう一度御太刀ラジオ体操の会の皆さんに拍手をお願いいたします。まだ息がハアハア言っているかもしれませんが、体を動かして心身ともにリフレッシュできたことでしょうか。今の気持ちのまま第2部に入ります。よろしいでしょうか。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

少し落ち着いた方が。藤森先生すごいですよね。ラジオ体操していて自分なんか後ろ行くとあゝ一とかって言いたくなるのですが、声も上がらずにやってらっしゃってたのがすごかったです。1つあの、奥野さんマイクを持つと手が疲れてとさっきおっしゃってたんですけども、今のラジオ体操の姿を後ろから見ているとすごいですよね。背筋をピンとの伸ばして健康だなんて感じがしました。

【藤森コーディネーター】

そうですね。元気に見えましたよ。一生懸命やっているのがよく分かりました。さあ会場の皆さんいかがですか。息は大丈夫でしょうか。大丈夫ですか。じゃあ第2部の方に移っていきたいと思います。

■ 第2部 ディスカッション、会場との対話

【藤森コーディネーター】

第2部の始めの方はですね、もうお時間の方も少ないんですが、パネリストの方々に2つ程質問をさせていただきます。1つ目は、活動する上で課題があると思いますが、課題を抱えながら活動が続いているのは皆さんなぜですか。まず津根さんどうですか。

【パネリスト 津根 静香 氏】

継続のコツかなとは思いますが、やはり各メンバーが活動への思いが強いものでなければいけないと思います。好奇心を持ち、何かを知り続けようとする、また視野を広げることも大切だと思います。そうすると活動がマンネリ化しないで継続するのではないのでしょうか。私はこう思います。



【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。活動の核には学びがある。そして学びがあるからこそ活動はマンネリ化しないんですよね。その学びといってもすごく勉強会をすとか、どこかの研修会に行くとかではなくて、新聞記事を皆で見えて話し合ったり、テレビのニュースからとか、また読んだ本の内容からとか、何か本当に自分の近くのもので学ぶという機会は持てますよね。やはり、学びっていうものは活動を継続させるためには大事なポイントではないかななんて思います。では、長田さんはどうですか。

【パネリスト 長田 タネ 氏】

特別に意識して継続させようと思うことはないんですけども、とにかく会員の方々が楽しみにその日を待っていてくれていますので、続けられるのだと思います。私も後期高齢者ですが、もっと高齢の方でもお元気な方は進んで会を手伝ってくださいますし、また何よりも自分自身が皆さんといっしょに楽しんでいるので続くのだと思います。そして毎回会員の方々が何か心の中にお土産を持ち帰ってくれば良いと思いながら、毎回小さな達成感を味わっています。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。本当にそうですよね。私達って何か活動に参加をすると何か貰って帰るんですよね。その貰って帰るものって1人1人はきっと違うと思います。ある人は感動だったり、ある人は喜びだったりすると思うのですが、ただその会に参加してほっとして帰るっていう方もいると思います。よかったよお私ここに来て。ほっとして帰れるよっていう方もいらっしゃると思うんですね。きっと私達って何か持ち帰ってくるものがあるから、私も活動に行こうって思うんですね。そういうことで続いていく。そんなことで活動は長く続けられるっていうことがありますね。

【パネリスト 長田 タネ 氏】

物質ではなくて、やはり心の中の喜びだと思うんですよね。それが続けられるコツだと思います。

います。

【藤森コーディネーター】

そうですね。目には見えないもの。心の中に入って来るものなんでしょうね。ありがとうございます。では、加納さんはどうですか。

【パネリスト 加納 健司 氏】

スポーツクラブでございますから、スポーツすなわち体を動かすこと、これを楽しむというそういう気持ちが必要ではないかと思えますね。そして私達のクラブのスポーツを考えます時にですね、一般的な競技スポーツとは少し趣が異なりまして、最近はこの世の中にもよく浸透してきておりますレクリエーション志向と言われるものでございますから、子どもから高齢者まで幅広い年齢層で、自分に合ったレベルで無理なく気軽に参加できる、そういうたことが1つの大きな要因ではないかと思えますし、それから活動に参加する時にですね、人と人との交流というのが生まれますからこれも大切にしているのではないかと、こんな風に思います。こうしたことが継続に繋がりやすいんじゃないかなとこういう風に思います。



【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。やっぱりレベルを高くしない、自分に合ったレベルで向かうと出来るんですよね。出来ると楽しいし、楽しいとまたやりたくなる。やりたくなるからまた行こうっていうような繰り返しになっていくんですよね。

【パネリスト 加納 健司 氏】

そうですね。一番大きな特色は、初心者からトップアスリートまであるわけですがけれども、私達の考えている地域のスポーツっていうものは、ホントに自分に合ったといいますかね、そういう志向が非常に低いところに焦点を当てているということですね。

【藤森コーディネーター】

本当にそうですね。活きた喜びっていうのがまたやりたいなって思って、そのことで活動が長く続けることが出来るようになるんだと思います。では奥野さんどうですか。

【パネリスト 奥野 治子 氏】

私は、自分の健康は自分でということでラジオ体操を始めて傘寿を迎えるということが本当に体操に感謝しています。そして、友達が来て「おはよう」「昨日はどうしたの」「風邪ひいちゃった」「でも早く治ったわね」っていう、そういう兄弟でもこんなに長く続かないのに、親戚以上というかそういう感じで毎日楽しませていただいています。

【藤森コーディネーター】

本当に奥野さんそうですね。まず元気じゃなきゃ続きませんものね。元気だから続けられる。そしてまた、周りに親戚以上のお付き合いができる仲間がいるからこそ続けられるってことですね。

【パネリスト 奥野 治子 氏】

それにね、やっぱり続けるには家族の協力があって、そしてね、場所にゴミが落ちてれば拾う、タバコの吸い殻があればそれを一生懸命拾う人もいます。本当に綺麗な運動場でやるってことが私達の楽しみ。電気が点いていれば「節電だね、消そうよ」。我が家と同じつもりでお借りしています。紅葉が落ちる頃、これでもって滑ってはいけない。じゃあ掃いてやろう。80過ぎた人も箒で掃いてくれます。本当に兄弟以上の付き合いかもしれませんね。

【藤森コーディネーター】

家族の支えがすごく味方になっていることと、また家族と同じように思ってみんなと一緒に活動するってことが長く続けられるコツなんですよ。ありがとうございます。では次に、2つ目の質問をさせていただきたいと思いますが、活動を通して感じていることをお話ししていただきながら、パネリストの方々のような活動をやってみよう、始めてみようと思う会場の皆さんに向かって一言お願いします。津根さんお願いします。

【パネリスト 津根 静香 氏】

私は活動を通して決して楽しいことばかりではないと思っています。けどいろいろな人と話をしたりとか聞いていくことによって、自分の考えを決めていくことができたり、そしてそれで前に進むことができるかなと思います。そして自分の生活や人生が豊かになると思っています。始めてみようと思う人に一言ですが、自分の考えていることとか思っていることを、友達2人集めて話してみるといいなと思います。ぜひ試しにやってみてください。そんな感じです。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。長田さんいかがですか。

【パネリスト 長田 タネ 氏】

私はいきいきサロンのテーマですから、いきいきサロンを始めようと思ったださる方に申し上げたいと思います。いきいきサロンは隣近所の人達が気軽に集まってお茶でも飲みながら、失われてしまった昔のようなコミュニケーションを取り戻すための会です。そうして集まる中で、近所通しの見守り意識や、時にはお節介でもいいと思います。孤立や孤独を防いでみんなが安心して暮らせる地域を作るのが目的。みんなが元気で長生きしようという、ピンピンコロリですか、最近流行っている言葉ですけども、それを望みながらみんな楽しく遊んでいるわけです。難しい会ではありません。楽しい地域を作るには住民自身の力が必要です。同じ思いの人が数名でも集まって一歩踏み出してみてください。それが楽しい会ということが分かればみんなが集まってきます。市の社会福祉協議会では、猿橋にすべての自治会にサロンを立ち上げたいとおっしゃっているようですけれども、18できましたけれども、古くからある自治会はほとんどもう立ち上げてますが、新興住宅地ですか、それから団地とかそういうところがまだ出来ていませんけれども、是非そういう会を作っただきたいと思います。



【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。加納さんどうですか。

【パネリスト 加納 健司 氏】

健康で心豊かな生活の創造を目指していただいていますね、お1人でもまたご家族お揃いでも、お気軽に参加することを検討してみしてほしいと思います。市内在住者であれば、性別、年齢は問いません。体験的な参加でも結構でございます。どうぞお待ちしております。なお、お手元のプログラムに事務局の連絡先が挟んでありますので、お問い合わせの際はどうぞご利用ください。以上でございます。ありがとうございました。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございます。奥野さんいかがですか。

【パネリスト 奥野 治子 氏】

御太刀ラジオ体操の会ですけど、今富士見台からも駒橋からも大月からも来ています。ますます大月の学校が淋しくなることを今から心配していますから、せめてラジオ体操の人数が多くなればとしみじみ思います。お待ちしております。



【藤森コーディネーター】

ありがとうございました。会場の皆さん、パネリストの方々の想いをまとめてみますと、津根さん、長田さんからは、何人かで集まって話してみると何かできますよ。加納さんからは、その集まりに気軽に参加してみると楽しいですよ。奥野さんからは、是非みんな入ってください。何かをやってください。来てください。というようなメッセージを送られました。楽しいとまた参加しますし、またその活動は続いていくと思います。以上がパネリストの方々から会場の皆さんへのメッセージです。会場の皆さんいかがですか。では続いて会場の皆さんから本日のパネリストの方々の一言いただきたいと思います。では杉田先生お願いします。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

はい、それでは今日は学びの場だなんていう話も先程ありましたけれども、要はここで一緒にさっきのサロンとかそういう風な話じゃないですけど、ちょっとお茶のみ話的でも構いません。今日の4人の方達の報告をお聞きして感じたことで全く構いませんし、始めて知ったことでもいいでしょうし、何かコメントを簡単でいいですのでいかがでしょうか。

【意見者 A】

いろんな会に参加させてもらって、今日の流れ素晴らしかったと思いますね。相当準備されたんじゃないかと思えます。コーディネーター、パネリストの皆さんもいろんな意見をまとめて会場の皆さんにすごく分かりやすく話してくださいました。ありがとうございました。それで、今の活動すごい素晴らしく、ましてや40年ですか、ラジオ体操を続けるのはこんな素晴らしいことはないなと思って感動しております。ただし、これから若い世代、私もいろんな会議に参加したりやったりしておりますけれども、特に若い世代、中学生だとか小学生あるいは高校生、20歳前後の人、その年代がどういう風に巻き込んでいっているのか。

繋ぐということになりますよね。その次の世代に対してのお考えをお聞きしたいと思います。お願いします。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

どうもすみません。ありがとうございます。今の活動はとても素晴らしい。先程からずっと出ているように本当に高齢者の方達元気ですよ。大月市はね。すごく頑張っていてくださっている。今度はやっぱりその下の若い世代達。高校生とかね。若い人達は確かに仕事を持って忙しくて大変なんですけども、そういう人達とどこで手を繋いでいこうかっていうことについてはどうかなっていうそういう意見です。是非そっちの方に段々だんだんしていかなければならないっていうお考えなんだろうなあとと思います。藤森先生お考えいただきながら先にいいですか。似たようなものっていうことでもいいですし、ありますか。



【意見者 B】

今日のご苦労さまでした。ちょっと津根さんにお聞きしたいことなんですけれども、今の事業というのは大変素晴らしいものだと思います。障がいを持っている親として素晴らしい事業をしていると思います。そこで私今考えて津根さんが仕事をしている、サークルをしているこのことについてはすごくよく分かりました。でも1つだけ津根さんに聞きたいのは、障がいの子どもと元気な子ども、健康児、その子どもとのコミュニケーションですか、そういうものについてどのようなお考えがあるかお聞きしたいんです。今大月市でどのくらいの障がいを持っている子どもがいるかお聞きしたいです。今やまびこ学園ともう1つの2つでどのように障がい児と健康児について、ふれあいですか、コミュニケーションをどのようにとっているかちょっとお聞きしたいです。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございます。お聞きしたいことはたくさん出てくるんですけども、本日については、わかる範囲で構いませんのでお考えいただきたい。

確におっしゃるとおりですよ。私実は去年3月まで学校現場にいまして、小学校だったんですけども、今はいろんな多くの子ども達と一緒に成長していこうよというかたちで、いろんな子達が一緒に生活していくなんてことをやっています。ノーマライゼーションなんて考えもあって、その中でたくさんのやっぱり当然問題もありますし、お互いに理解できないがあつたりもするんですけども、だぶんきっとそういうところが難しいのではないかというお考えから是非この活動を賛同していただきながら次へということかなという気もします。藤森先生、今2つ程出ていますけどもいかがでしょうか。

【藤森コーディネーター】

では1つ目の世代間ですね。今やっていることを今度は次の子ども達に。子ども達がそれを引き継いでってというようなことで、加納さんの方からお話をしてくださいますのでお願いします。

【パネリスト 加納 健司 氏】

的を得た回答になるかどうか分かりませんが、お話をさせていただきます。まず先程ですね発表の時に申し上げさせていただいたんですが、私がやっているスポーツクラブはですね、現在4つのクラブが展開されております。その中で子どもさん達が参加しているのは2つあります。1つはですねフットサル教室。この教室は子どもさん達が非常に多い



です。だいたい80%以上が子どもさんですね。それからもう1つはですね、健康体操教室というのがあるんですけども、これは今で言うとズンバっていう音楽に合わせてやるものであると思いますが、私は残念ながらそれだけの動きができませんからいつも見ているだけですけれども、その2つの教室に子どもさん達が参加しております。そして2つともですね、木曜日の夜の活動になっております。フットサルに参加する子どもさん達は、実際にボールを使った活動をするわけですが、健康体操教室の方に参加する子どもさん達は、ちょうど壮年のお母さん方が多く参加しますから、子どもさん達を連れてきております。そういう参加の仕方でお母さん達あるいは周りの先生方ですね、パフォーマンスを真似てやっている。そういうような状況です。あと2つの教室はですね、1つは原則水曜日の午前中、それからもう1つこれはグラウンドゴルフですけども、もう1つはですね金曜の午前中、これは介護予防健康体操教室です。この2つには子どもさん達が参加をする時間的な合致がないわけですね。ですから子どもさん達を多く取り込んで活動してもらうには、曜日、時間等々ですね、工夫していかないと今の状態のような場合には、4つの教室でなかなか迎え入れることが難しいという風になります。したがって、これからですね、子どもさんから高齢者までが世代間を超えて一緒に活動できるようなニュースポーツの種目を取り入れていくという考えを持っていかなくちゃいけないなとこんな風に思います。

【藤森コーディネーター】

はい、ありがとうございます。場を設定していくというのも1つの方法。交流ができるようにというお話がありましたね。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

高齢者の方達と若い子ども達とのですね。

【藤森コーディネーター】

場を設定してそこで交流を持っていくというのも1つの方法かなというお話が加納さんの方からありました。でもう1つあるんですね。もう1つは津根さんの方で教えてください。津根さんお願いします。

【パネリスト 津根 静香 氏】

今やまびこの支援学校では、正確な数は分かりませんが、小学部30名ぐらい、中学部20名、高等部30名ぐらい、計70人から80人ぐらいだと思います。やはり毎年高等部になると突然人数が増えるというか、小学部では少ないんですけど高等部になると、地域の特殊学級の子どもとか、結局中学校までは義務教育ですが高等部では義務教育ではないので、そのところで人数が増えて、今世間ではよく言われている発達障害という方達がその高

等部で来る方が多いかなと思います。健常児と障がい児とのコミュニケーションですけれども、私の子どもは小学校の頃、居住地校交流っていうのをしています、元畑倉小学校で月1回とか年何回かなんですけれども、自分の子どもがここにいたらここに通うであろうという小学校と交流していたので、学校から帰ってきて近所を歩いても声掛けをしてくれるというか、顔見知りになれるというかそういう交流がありました。なかなかそういう交流は親が求めないとできないというのがあるんですけど、やっぱり私達りん鈴の方も親の意識を変えていって自分から地域に出ていくような交流、小学校と交流したりとかそういうのが大切かなとは思っています。あと社協の方とかでは福祉講話とかで小学生と。子どもの交流っていうのはとても難しいと思うんですけども、私達がこれから今提案というか質問をいただいて考えたことは、イベントをしたときにボランティアとして私達はどうしてもちょっと大きめの学生さんとか、短大生とか大学生とか大人の方を求めてしまうんですけど、子どもなので、だったらまあ一緒に活動するっていう意味では健常の子どもさん達と一緒に遊ぶっていう感覚の場を提供してもいいかなとそんな風に思いました。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございます。私が以前受け持ったところのお母さんなんかは、この子はこの地域で生きていくんです、ってことを言われたことが私はすごく心に残っています。やっぱりそのことは考えていくというのが必要かなと感じました。ありがとうございます。

【意見者C】

51回目の生涯学習推進大会、今日はたいへん素晴らしいお話をお聞きして本当に感動しました。と一緒に集まりの皆さんにお耳の痛い話をしたいと思います。というのは、今日この会場にだいぶ大勢の方が来ていただいて、生涯学習に関心を持っていただいていると関心をしました。しかし、その中で男性の方が今日割合に多くみえています。女性より男性の方が多いんじゃないかという風に私はここで感じて見ておりました。



たぶんこの問題は、男性が各地域の公民館またはいろいろの社会教育、または各団体のリーダーである、言い換えれば失礼かもしれませんが時には義理で来ているという風な感じの人、ここで今日は参加して話を聞いて帰ればそれでいいという風にお考えの方もいらっしゃるんじゃないかなという風に感じます。というのはなぜかっていうと今日発表された長田さん加納さん奥野さん、たぶん悩みとして持っているのは、女性の会員が多いということ、男性の会員が非常に少ないんじゃないか、津根さんの場合はね、たぶんこれもお母さん達の会だと思うんですけど、お父さんが参加していいかどうかということも考えられると思いますけど、そんな中でいつも思う、私が感じているのは、いろいろな会合をもって、教室を開催しても女性はたくさん集まってくれます。しかし男性はなかなか集まってくださらない。実は私の関係している介護予防健康体操、できれば男性の方にも参加していただきたいんですが、たった3名しかいない。10%にならないわけです。そういう中でね、今日お見えの男性の方々は各地域でリーダーとしていろいろご指導されていると思います。さらに今日の話をもっとそれぞれの地域に持って帰っていただいて、そしてリーダーとして地域の役員として是非組織を、グループを作っていたらありがたいと。そういうことでただ話を聞いてああ良かったというだけでなく、是非各地域でこういう会を盛り上げていただけたら。特に私の関係している介護予防健

康体操教室、大月に1か所しかない。できたら各地域にそういう教室を作っていたらありがたいと思います。というのはやっぱり集まってくる人が非常に小さな地域しか集まらないんですね。足がないから。そこでそれぞれのリーダーがそれぞれの地域でこういう組織を作っていて、是非生涯学習をさらに高めていただけたらと思います。失礼なことを言いましたけれどもお許しいただいて、私の考えを申し上げました。以上です。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございます。藤森先生、時間が来ているんですけども、あとお二方ちょっと今あるんで、回答とかはなくてその場で話していただくかたちでいいですか。

【藤森コーディネーター】

お願いします。

【意見者D】

今日はたいへんありがとうございました。いろいろ外の富士山の写真ですね、富嶽の写真とかを見まして、やはり大月でなければできないそういうこの大会だなあとということを実感しました。そしてまた中村先生からちょっとお話を伺ったのですが、伊能忠敬のですね映画の話とか、またここを通ったという風なことでいろいろと調べたものを見させていただきました。本当に地域に根付いたこの生涯学習推進大会の中身だなという風なことを感じさせていただきました。そしてこの大会を聞かせていただきまして、本当に素晴らしいと、その一言に尽きると思います。パネリストの方々のお話もたいへん解り易かったと思いますし、それを引き出していただいてコーディネーターの先生のお話も非常に素晴らしい語りで私達非常に良く解ったと思っております。それで、どなたも本当に温かい心のある語りであったなという風なことを思っています。そしてパワーポイントなんかもですね、いつも私もいろいろな大会に出で学ばせてもらってるわけですが、一番解り易かったと思います。そんなことで私はいろいろお土産をいただいたわけですが、1つですね質問も出来たらお願いしたいと思いますが、長田さんの方にですね、もし答えられたらお願いしたいのですが、いきいきサロンのことですがね、私達の地域でもいきいきサロンという風なことをやっておりますが、最近カラオケなどをしてですね、たくさんの方が集まってくるという状況がありますけども、でもなかなか来られる人は歌が好きで元気な人。本当に誘いたいなというような人はなかなか出てきていただけない。そして閉じこもりがちの人なんかも思っています。なかなか来ていただけないという風なことがあります。先程の発表では閉じこもりがちの人を誘い出して皆でそういう人達を支えていくのもいきいきサロンのという風なお話がありましたので、そんな実例がありましたらちょっと時間の都合もありますので、短くて結構ですのでお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

【意見者E】

今日は素晴らしい推進大会に参加させていただいてたいへんうれしく思います。パネリストの素晴らしい実践報告。それからコーディネーターの先生の進め方等たいへん立派で感動いたしました。やはりこういうことが非常に大事であるし、将来日本もこれからこういう風に生きていかなきゃいけないなという



ことを感じておりますが、時間もありませんので端的に申し上げますが、私も現在自治会長をしております。いきいきサロンや老人会に係わっておりますが、ほとんどが女性です。男性はほとんど出てきてくれません。プライドが高いかどうか分かりませんが、出てきてほしいなと思っても出てきてくれない。男性をそういう場に引き出すのにはどうすればいいのかなってことを私も悩んでおりますが、長田さんにその辺をこうすれば男性が出て来るよってことをですね、ちょっとお話しただければありがたいと思いますが、よろしく申し上げます。

【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございます。両方とも長田さんということなんですけれども、よろしいですか。よろしく申し上げます。

【パネリスト 長田 タネ 氏】

実は私どものサロンは猿橋というところは、自治会毎にサロンを立ち上げておまして、先程も申し上げましたように、昔の小さい町ですけれどもここに18ものサロンが立ち上がっていますので、小規模で本当に隣近所の集まりなわけなんです。その中で在籍している会員としては、20名か21名くらいですけれども、最初の方のご質問ですけれども、人にはいろいろな資質がありますので、男性ですけれども私よりももう少しお若い方ですけれども、立派な方ですけれども、皆大勢集まるころへ出るのがお若い時からあまり好きじゃなかったような方なんです。趣味のことをコツコツとやっていたというような方ですけども、ちょっと最近認知症が始まったかなって感じの方を最近奥様が連れてきました。今までそういうことにはあまりその方は関心を持っていなかったようですけども、奥さんが引っ張り出してきて皆で本当にその方に集中して声をかけたりして、「また次にも出てこうよ」なんて言って、本当に喜んで、「くるさよ、声をかけてくれなきゃ怒るぞ」なんていいながら帰っていくんですよ。それでもうここ3、4か月続いています。ですから奥様にもまだ回数が少ないけれども続けて来てくれて何か改善の兆しが見えればいいねなんて話しているんですけどもね。それからまたまだ60代くらいのお若いんですけれども、急に奥様を亡くされた方が、男性の独り暮らしはお気の毒ですよ。本当に落ち込んでいたんですけれども、それは親しいお友達が誘ってやはりサロンに来てくださいました。そして本当に明るくなりました。今までちょっと落ち込んでいたせいか、顔を合わせてもこちらからあいさつできないような目を逸らしてしまうからね、そんなような方でしたけれども向こうからニコニコ笑ってあいさつしてくださるようになった、そういう方もいらっしゃいます。やはりおっしゃいますように男性の数は非常に少ないですけれども、ここ1、2年くらい60代の男性が数名入ってくださいますので、すごく楽しい会になっております。



【富士・東部教育事務所 杉田 眞 先生】

ありがとうございます。きつともっといろいろ確認したいということもあるかと思えます。藤森先生、今出されたことも、もしかしたら大月市のことだけではないですよ。きつと他のところもってことで、お話があったと思うので皆でやっぱりこれは考えていかなければならない、本当に真剣に考えていきたいってことだと思えますのでお願いします。

【藤森コーディネーター】

ありがとうございました。またパネリストの方々への会場の皆さんから励ましのお言葉がたくさんあって、きっとまた皆さん今日からまた元気で生き活きと活動を続けて行かれるんじゃないかななんて思います。ありがとうございました。

ではまとめの時間になります。そろそろお時間になりました。活動を始めることは難しいことではないなということ、本日のシンポジウム「みんなが幸せになる活力ある地域づくり」から感じていただけたのではないのでしょうか。4名のパネリストの方々が発表の中で私達に贈ってくださった言葉をここで改めてお伝えします。

津根さんは、やってみようという気持ちがある人の人生を変えていく。その気持ちに年齢は関係ない。参加する、やってみることで何かを感じたり、気づき、学びがたくさんある。

長田さんは、人様に喜んでもらえる幸せが自分自身に震えるような感動と勇気を与える。人との繋がりによって自分を高めることができる。

加納さんは、誰もが気軽に参加できるスポーツから明るい町を作りたい。

奥野さんは、活動への参加が、他からの強制ではなく、各人の自由意思によるもの。何をやるにも心と体の健康が第一。

今活動をなさっている方々の言葉は、私達に大きな勇気と希望を与えていただきました。活動を始めると、どうしよう、こうしたらいいのかな、などと考え学ぶ機会になります。そして仲間と一緒に活動することが生きがいや、やる気となっていきます。また活動を続けていくといろいろな方々と繋がっていき、仲間の輪が広がり、やがて地域づくりとなっていきます。そして皆さんお1人お1人の思いが、大月市を創り上げみんなを幸せへと繋がっていきます。一つの活動は小さなものかもしれませんが、小さな活動がいくつもいくつも繋がっていくとそれは大きな大きなものになっていきます。何年か先、大月市がたくさんの活動でいっぱいになるように、さあみなさん始めてみませんか、仲間と一緒に。本日はお集まりいただきましてありがとうございました。パネリストの方々、会場の皆さんどうもありがとうございました。以上でシンポジウムを終了いたします。



第51回大月市生涯学習推進大会

〈アンケート用紙〉

お忙しいところ、ご参加くださいますありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

◎ あなたご自身について教えてください。【該当するものに○印】

男性・女性 (10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上)

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他 ()

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. チラシ イ. 知人・友人からの案内 ウ. 新聞記事 エ. 学校からの案内
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他 ()

I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他 ()

II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他 ()

III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とてもよかった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

〔上記を選んだ理由：〕

● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてもらいたい課題等)

ご協力ありがとうございました。

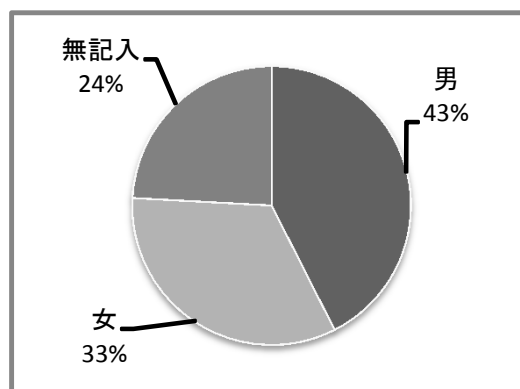
第51回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数:87
アンケート回収率:29%

◎ あなた自身について教えてください。

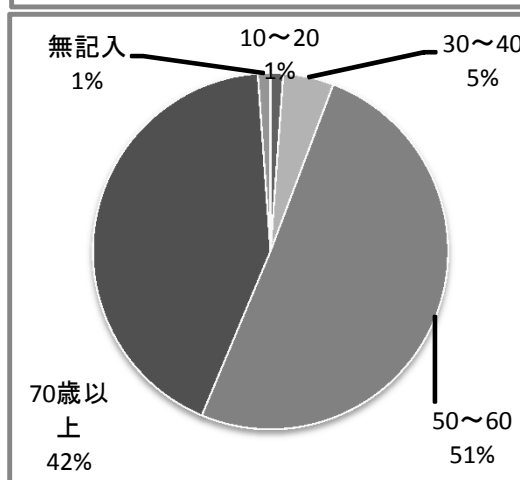
(性別)

男	37
女	29
無記入	21



(年代)

10歳代～20歳代	1
30歳代～40歳代	4
50歳代～60歳代	44
70歳以上	37
無記入	1



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	7
イ	勤め(全日)	14
ウ	勤め(パート・臨時)	5
エ	学生	0
オ	専業主婦	21
カ	無職	37
キ	その他	2
	無記入	1

2) 今回の大会を何で知りましたか？

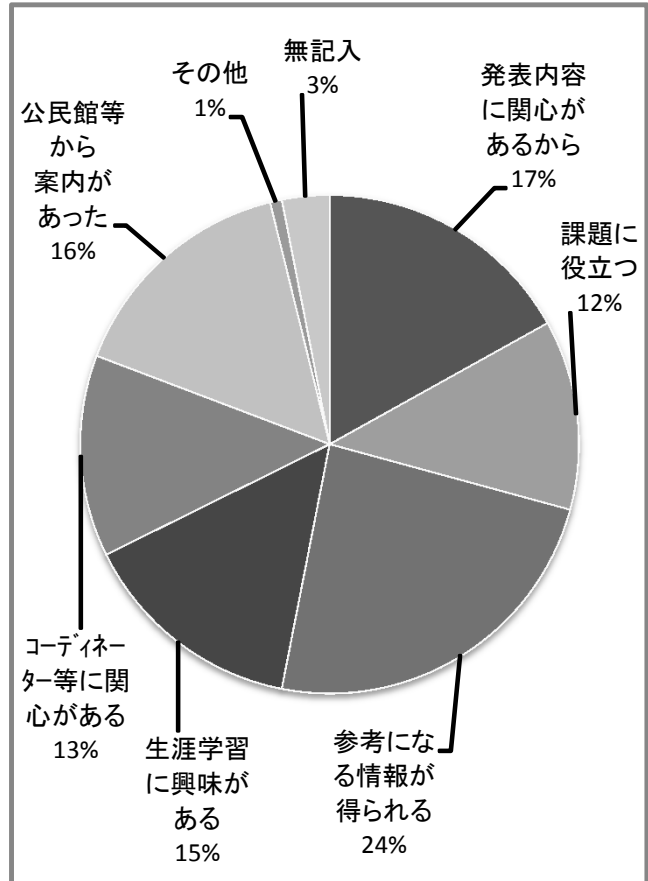
ア	チラシ	12
イ	知人・友人からの案内	12
ウ	新聞記事	0
エ	学校からの案内	1
オ	公民館からの案内	24
カ	所属団体からの案内	40
キ	その他	7
	無記入	0
	二つ回答	9

■ 2) その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 市役所(社会教育課、教育委員会) ・社会教育委員 ・民生委員

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	22
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	16
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	31
④	生涯学習全般に興味があるから	19
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	17
⑥	公民館や学校等から案内があったから	20
⑦	その他	1
	無記入	4
	二つ以上回答	43

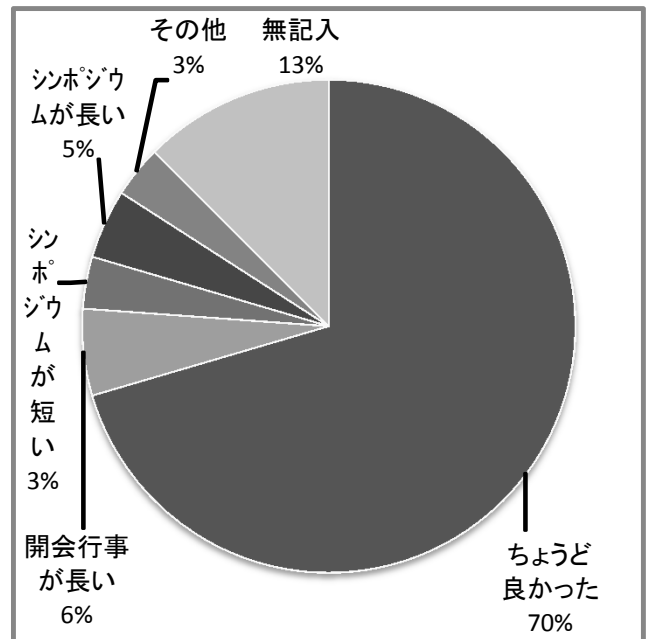


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ これからの人生の選択に参考になるかなと考え参加しました。

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	ちょうど良かった	62
②	開会行事が長すぎる	5
③	シンポジウムが短すぎる	3
④	シンポジウムが長すぎる	4
⑤	その他	3
	無記入	11
	二つ以上回答	1

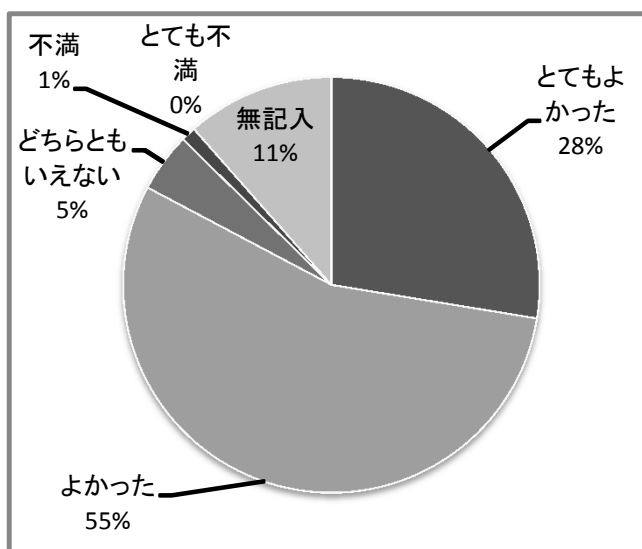


■その他に記入された内容

- ・ パネリストが多すぎる。・開会行事が短すぎる

Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

①	とてもよかった	24
②	よかった	48
③	どちらともいえない	4
④	不満だった	1
⑤	とても不満だった	0
	無記入	10



■ 上記を選んだ理由

- ・ 書ききれないくらい学びがありました。生涯学習推進の原点は「自分」にあると改めて学びました。
- ・ 今後の活動を企画するのに参考になりそうだから。
- ・ すばらしいの一言に尽きます。ありがとうございました。
- ・ 発表からまとめまで進行がスムーズで聞きやすかった。
- ・ 具体的な内容が良く自分の思いと同調した。
- ・ 一人ではなく、仲間を作ることが継続する為の第一歩だと強く思った。
- ・ パネリストが実直な話しぶりで好感。コーディネーターの藤森さんのリード良。
- ・ 単に生涯学習活動の成果を発表する機会ではなく、「生涯学習とは何だろう？」という大きな課題を考えるきっかけになるものだと感じました。コーディネーターの方の進行がとても上手でした。
- ・ 打合せが良く、それぞれの活動が良く分かった。皆さんの話し方もよい。コーディネーターのやさしいやわらかい声がいいですね！
- ・ コーディネーター、パネリスト共に準備された原稿を読む感じで、表現が堅いと思いました。自分の言葉で良いと思います。市内での具体的実践によるものだから、「継続は力なり」「習慣は第二の天性である」⇒続けることの大切さ。
- ・ 大月市生涯学習の活動の内容を深く知り得ることが出来参考になりました。
- ・ 色々な方面からの課題でとても勉強になった。
- ・ 種々の活動が継続的に行われていることを知り、参考となりました。
- ・ 御太刀ラジオ体操の会「継続は力」すごいですね！！
- ・ 少しかたくるしかった。もっとふだん着のかんじがほしい。

- ・ サロン団体からの通知で参加しましたが、沢山の方々の活動を聞いた事
- ・ サロンの活動などの話が聞けて立ち上げたばかりの私達の参考になりました。
- ・ コーディネーターとパネリスト側とのやりとりがわかりやすかった。パネリストの皆様の発表が大変すばらしい。
- ・ 自分達の地域活動の参考の情報得られました。
- ・ 皆さん協力しあい、勉強し努力している事に頭が下がりました。
- ・ 藤森さんの話の進め方。非常に上手にパネリストをうまくリード。
- ・ 4人の活動報告をパネルによる発表すばらしい。
- ・ コーディネーター、パネリスト、パターンはマンネリ。
- ・ 時間の長さがちょうどよかった。内容もよかった。
- ・ コーディネーターの進行が大変良かった。
- ・ パネリストそれぞれ、わかりよい説明がされた。
- ・ パネリストのたゆまぬ努力をかいま見る事が出来ました。継続は素晴らしいと思いました。
- ・ 親の介護25年が終わって始めて参加することができ、昨年からいきいきサロンのお手伝いを始めたのでがんばります。
- ・ 目標に向かっている素晴らしさ。
- ・ 私の体とちょうど考えていたことです。
- ・ 70を過ぎても元気で家族に迷惑かけない様がんばっている人々の話を聞いて良かったです。。
- ・ 休憩時、体操が良かった。
- ・ 生涯学習、長く続けているお年寄りが多くいて驚いた。働きざかりの中高年、時間がない。時間がないのか、出られないのか。
- ・ いつもより前向きな話だった。
- ・ 大月市内で活動する団体の様子がよくわかった。
- ・ 希望した課題でしたのでとても良かったです。
- ・ パネリストの話が少し長く感じました。

■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

- ・ コーディネーター、パネリスト共にもっと気軽に話してもらえればよかったのではないかと書いてあることをそのまま読むのではなくて。
- ・ 健情者と言語障がいとのコミュニケーション。
- ・ 発表がわかりやすく、パワーポイントも上手だと思いました。どなたも温かい心ある語りでした。
- ・ 参加人数が少ない。
- ・ 参加者が少ないと思う。
- ・ 地域的を立地条件等が合わないというのが、山間地域の多い大月市内に於ける課題だと思われる。全域に根付かせる事が望まれる。
今回、山梨市の社会教育委員と生涯学習課の職員9人で参加させていただきました。趣味の範囲を超えた生涯学習の取組みが、地域づくりにつながっている事例をお聞きすることができ、大いに参考になりました。熱い思いを持った核となる人材が生涯学習の分野においても必要であり、行政としてはそのような人材をどう発掘していくのか、育成していくのかを考えていかなければと改めて感じました。ありがとうございました。
- ・ パンフもすっきり分かりやすい。かなり準備に努力している様子が分かります。
- ・ 具体的実践されている内容で参考になりました。一度に大きな成果を求めるのではなく、出来ることを実行する勇気が大切だと思いました。
これからの生き方の参考になりました。パネリストのご尽力に頭が下がりました。ひとりひとりのつながりの大切さも学ぶ事が出来良かったです。ラジオ体操楽しかったです。明日から夫と頑張ります。
- ・ 最後の質問者の男性への苦言そう快でした。代表者になる人だけでなく、活動に参加する男性が増えてほしい。
- ・ 無理なく、自然に続けてゆくことのコツを掴めたらと思っています。
- ・ 会場には高齢者が多いので、もう少し時短をしてほしい。私も腰が痛くなりました。コーディネーターの意見が目立ちすぎ。
- ・ 昨年よりサロンを始めましたが、人生の大先輩の方々が人と人とのつながりを大切に継続をしてほしい、との言葉を胸に活動をしたいと思う。
- ・ 推進大会の開催を市民の多勢にしらしめる事を考える様望みたい。
本会開催の連絡は地域の一部の人にしかしていないので、出来れば図書館等を利用して多くの市民に連絡して欲しい。私も地区kの役員から知らされたので参加したので。
- ・ 広く参加していただいた方々に、こんな会やサロンやクラブがあるんだよと知らしめる事が出来てよかった。
- ・ 51回生涯学習推進大会、これが続いてほしい。
- ・ 色々の発表大変良かった。私もいきいき入ってます。

- ・ 推進大会意味深いシンポジウムでした。有難うございました。
- ・ 生涯教育については、若い人の参加も必要であり、その方面への呼びかけをしてもらいたい。
- ・ 身近なところから仲間作り、地域づくりに参加して行こうと思います。
- ・ 自分の知らないことが多かった。新知識を得て大変よかったと思います。
- ・ パネリストの発表内容を伺って自分には出来そうもないと思いました。
- ・ だらだらと長いとあきるので、もう少し短めが集中して耳を傾けられると思います。でも素晴らしかったです。
- ・ 障がい、老人、スポーツに関係者の発表でしたが、もう少し若い人の生き方、なやみもよいかと思いました。
- ・ PR不足で出席者がいつもより少なかったと思う。防災無線を使い、市民に周知してもよかったのではないか。シンポジウムが長かったのか、帰られる人が多かったのが残念。
- ・ 大月市の観光について
- ・ 準備、運営、おつかれさまでした。
- ・ みなさん元気で頑張っていることを知り、できるだけ自分もグループに参加することに心がけたいと思いました。
- ・ 先にたって進めてくれる方々のおかげです。スポーツ活動は特に良いと思います。
- ・ この様な活動をはじめて知りました。今まで仕事等忙しく何も活動していませんでしたが、昨年から老犬に入りとても楽しいのでこれからいろいろ考えてみようと思強になりました。
- ・ ラジオ体操、健やかスポーツクラブの効果などがわかるとその気になると思いました。
- ・ シンポジウムの発表は良い内容でした。多くの人に聞いてもらいたい。
- ・ 健やかスポーツクラブに行く足がない人がいると思うがどのようにしているか。
- ・ パネリストとの皆様ありがとうございました。とても分かりやすく参考になりました。
- ・ 地域でこのような活動をしている人々がいることを知りました。
- ・ 地域での参加型サロンの集まり、いろいろな活動をしている事が少なからずわかって来た。マンネリ化しているサロンの活動をどうして行くかがこれからの問題点であると思っている。

第51回大月市生涯学習推進大会 参加者集計表

所属団体等		合 計
公民館 (分館含む)	笹 子	15
	初 狩	6
	真 木	6
	大 月	10
	賑 岡	18
	七 保	24
	瀬 戸	10
	猿 橋	36
	富 浜	13
	梁 川	12
青少年育成市民会議		1
青少年育成推進員連絡協議会		0
文化協会		4
青年会議所		0
男女共同参画推進委員会		0
社会福祉協議会		31
老人クラブ連合会		10
ボランティア協議会		1
民生委員児童委員協議会		19
保健活動推進員会		0
PTA連合会		0
スポーツ推進委員協議会		1
郷土資料館運営委員会		0
図書館協議会		0
大月短期大学		0
市内小中学校		20
個人		19
その他(山梨市社会教育委員、生涯学習課職員等)		10
小 計		266
主催者(教育委員・社会教育委員・地区公民館長)		27
来賓		7
シンポジウム関係者(コーディネーター・パネリスト等)		6
アトラクション関係者(猿橋小学校お琴クラブ)		9
社会教育課(推進大会運営業務従事職員)		16
総 計		331